新藤信夫市政ニュース

（しんどうのぶお）

平成25年12月
Vol.19

発行:自民党さいたま市議会議員団大宮区西支部
TEL 647-7713
FAX 647-7726

2017世界盆栽大会 さいたま市に開催決定

新藤信夫

さいたま市北区の盆栽村は今年で開村90年になる。大正12年（1923年）の関東大震災で都内で被災した盆栽園が盆栽を育てるのに相応しい土地を求めて移転して来たのが始まりで、戦前は30園以上あった盆栽園も今は5園となったものの町並みは盆栽村を象徴するように緑豊かな環境が保たれている。海外では盆栽の愛好家が増加しており大宮盆栽の生産者はヨーロッパへの盆栽輸出に乗り出し、1鉢10万円以上の中高級品を主力に3年後には5億円の輸出高を目指している。今や世界ブランドとなった盆栽に国内でも再び脚光を浴びる年が決まった。2017年世界盆栽大会が28年ぶりにさいたま市で開催されることが決定したのである。4年に一度開かれるこの大会は第1回が平成元年（1989年）に旧大宮市で開催されて以来世界の6都市（オークランド、ソウル、ミュンヘン、ワシントンDC、サンファン、金壇）を巡って再び4年後の平成29年にさいたま市に戻ってくる。

9月27日、世界盆栽友好連盟の理事会が第7回世界盆栽大会が開催されていた中国江蘇省金壇市で開かれ、次回第8回大会をさいたま市開催と決定、この日まで台湾も誘致する意向を表明していたが、正式立候補を見送り11人の理事全員が満場一致で賛成した。投票に先立ち、前日の26日に行われたレセプションでは農林水産副大臣が安倍首相のメッセージを代読し、27日の理事会では日本の誘致委員会がプレゼンテーションを行いその中で清水さいたま市長は「オープンして4年目を迎えた大宮盆栽美術館には日本を代表する名品が有り、海外からも多くの観光客が訪れている。」とアピールした。

24年前の第1回大会は4月6日から9日までの4日間、大宮ソニックシティをメーン会場として開催され世界32カ国から1237人もの盆栽指導者や愛好家が参加した。歓迎レセプションやワークショップ、皇居の盆栽展示もおこなわれ、盆栽村はソニックシティとシャトルバスで結ばれて多くの外国人観光客でにぎわったと記録されている。また開会日には世界盆栽展の記念切手が全国で発売され花を添えた。

平成29年の第8回大会はさいたま市や盆栽関係者で作る実行委員会が主催し4月27日から30日に開催され、主会場は大宮ソニックシティとパレスホテル大宮で、大宮盆栽美術館や盆栽村はサブ会場として用いられる予定となっている。開催経費は約1億8000万円が見込まれ、2分の1を市が負担する。大会期間中は約7万人の観光客が訪れることが見込まれており、経済効果は約5億円を想定している。ツールドフランス100回記念大会に続く国際イベントの誘致がさいたま市のイメージ向上に結びつけられるか、市の制作力に期待するところは大きい。

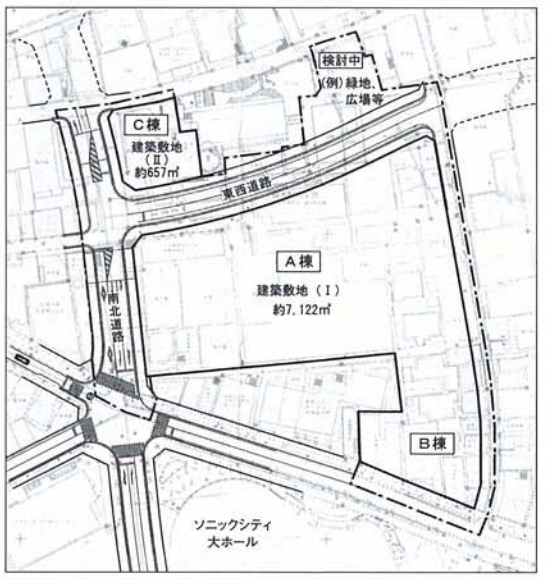
世界盆栽大会に向けて林芳正農林水産大臣が大宮盆栽美術館を視察（11月16日）

大宮駅西口3－B地区再開発事業　市長に陳情書提出

当地区はソニックシティ北側の約1.4haで大宮市時代には用地の先行買収を行って大宮駅前開発やソニックシティの完成後は速やかに都市再開発事業に乗り出そうとしていた区域であったが、バブルの崩壊や地権者の意見がまとまらず現在に至っていた。

平成23年4月の準備組合の設立によって地元住民の意見もほぼまとまり、2年間にわたった権利者等との協議を経て都市計画に係る方向性が定まって来たため平成25年7月には平成26年3月の都市計画審議会上程を目標に都市計画決定の手続きを要請する文書を市長宛に提出した。しかし、8月になって当地区を担当する大宮西口まちづくり事務所から「庁内調整に時間がかかっている。」等の理由により都市計画審議会への上程をのばしたいとの意見が出たため今回の陳情書提出となった。大幅なスケジュールの変更は権利者の生活再建に大きく関わることであり、賛同率82%まで至った機運も薄れてしまうことになりかねないことから地元地権者は、円滑な都市計画手続きを進めてもらうことを強く望んでいる。

10月3日 斉藤理事長（中央）から市長に陳情書提出



太陽光発電設備　市立校全校に設置へ

9月議会では、委託契約としては最大規模となる「さいたま市立学校太陽光発電設備・蓄電池設備工事」の契約について議決した。これは8月14日までにWTO案件として入札が行われ、東京のソニービジネスソリューション（株）と市内電気工事会社等4社で構成する「さいたま市太陽光・蓄電設置事業協同グループ」が落札し、仮契約していたもので、この議決によって議会の承認を得たこととなり29億9040万円で正式契約となる。当工事の委託は本市が掲げる「新エネルギー政策」のリーディング事業として平成25年から27年の3年間で市立学校152校に太陽光発電設備と蓄電池を設置して、再生可能エネルギーの導入拡大とエネルギーセキュリティの強化を図るもので、余剰電力は東京電力に売電する。

また、発電システムや発電量等を標示したモニターパネルも設置され理科の教材としても活用されることとなっている。

つばさ小学校の太陽光パネル

さいたまクリテリウムｂｙツールドフランス　新都心を走り抜けた銀輪

第100回開催を迎えた世界最高峰の自転車ロードレース「ツールドフランス」の名称を冠とした「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」がさいたま市の主催、日本自転車競技連盟等の協力を得て10月26日にさいたま新都心周辺で開催された。レースは１週2.7kmの公道を使う周回コースで行われ、海外からの招へい選手と国内の有力選手合わせて56名が出場、ポイントレースとコースを20周するメーンのクリテリウムが行われ歩道を埋め尽くした20万人の観客を沸かせた。

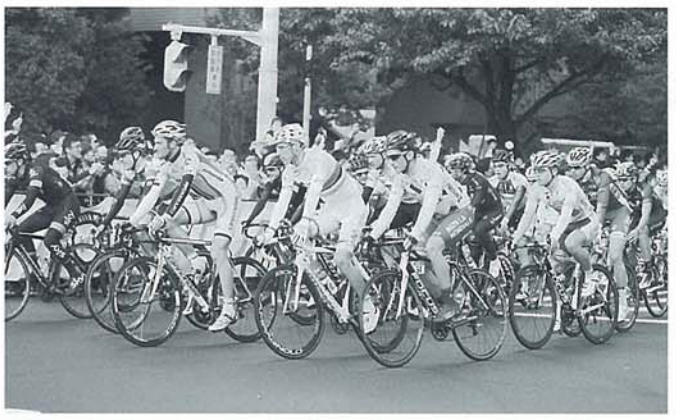
この大会が開催されるまでにはいくつかの道のりがあったが、これだけの大きな大会が開催されるまでに準備期間が正式調印から１年足らずというのは短すぎた感がある。清水市長がツールドフランスの主催会社であるアモリ・スポル・オルガニザシオン（ASO）を訪問したのが第99回ツールドフランス開催中の去年７月、ここから本格的な契約に向けた調整が始まり平成12年度末の３月に正式契約調印となった。その後今年４月にさいたまクリテリウム実行委員会設立、７月には清水市長がツールドフランス開催地の一つであるモンサンミッシェルを視察・記者会見、９月３日からは若手芸人「がるるまん」による応援キャラバン「自転車でぐるっと埼玉」が三郷市をスタート、９月25日にレースの概要と出場選手発表などあわただしく準備が進められてきたが、担当した経済局でも PR 不足から協賛者の募集が遅れたり、警備などの調整に手間取るなど段取りの悪さが指摘されていた。

市議会としてもこの大会を支援しようと開催１ヶ月前の９月26日に国際交流・国際化議員連盟が主催して市民会館うらわで講演会を開催した。講師にはツールドフランスを25年に渡って現地取材をしている山口和幸氏と在日フランス大使館広報部のニコラ・ラコット参事官を招いて本場ツールドフランスの映像を交えながら参加した市民や県・市会議員、市職員120人を前にツールドフランスの魅力や楽しみ方などについて講演が行われた。

25日には直前の記者会見と前夜祭が行われ接近しつつある台風27号の影響で心配される天気にもかかわらず「台風の進路がそれて通過も早まった。」として開催が決断され、今年のツールドフランス本大会で総合優勝したクリストファー・フルーム選手も当大会にかける意気込みを語った。

26日本番当日は南海上を通過する台風27号の影響で時折強い雨が降るあいにくの天気となった。このためオープニングを飾って市長も参加して午前中に行われる予定であったオープニング走行は中止、参加を予定していた一般市民や協賛者をがっかりさせたが、時間が過ぎると共に雨はあがり、午後には予定どおりポイントレースから行われ、クリテリウムレースが行われた午後３時からは雨もすっかりあがって最後には日も差して路面も乾きベストコンデションでの競技となった。先頭が何度も入れ替わるスリリングなレースとなったが、優勝は最後の１周で他の有力選手を交わしたツールドフランス２連覇のフルーム選手となった。

優勝をねらう新城選手



観客が集まった会場周辺では、スーパーアリーナで自転車関連ブースが出展した「サイクルフェスタ」や、けやき広場ではフランスや地元の飲食を集めた「さいたまるしぇ」の催しも開かれお祭りムードを盛り上げた。

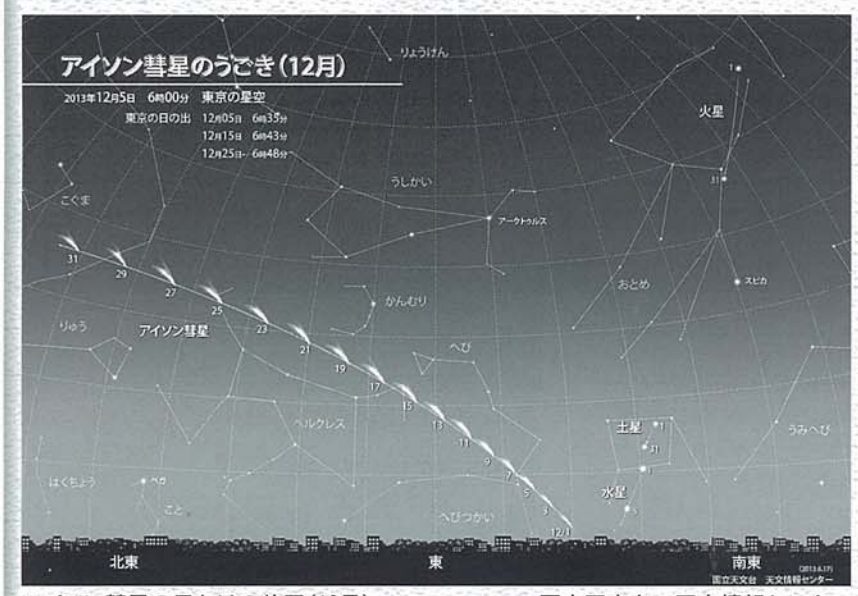
大会は午前のスケジュールが雨のため中止になったものの、予想を超える20万人の観客を集めてメインレースができたことは成功と言える。大筋では来年も継続開催をすることで ASO とも合意ができており、会を重ねる毎に大きな大会にしていくことが大切である。しかし、開催までの準備期間が短く PR や運営面で不足した。また資金面でも予定していた企業協賛金の１億５千万円が集まるのに大会間際までかかったことや、ユーロ高による為替差損とテロ防止のための警備費が大幅にふくれあがるなど今後２億円を超える補正予算が必要となる等課題も多い。中期的には東京オリンピックをにらんで宿泊施設、コンベンション施設の誘致にも力を入れて滞在型の都市への変化も望まれる。

また、**来年度以降は**今回使用したコースの隣接地（新都心８－１Ａ街区）に日赤病院と小児医療センターの工事がすでに始まっており、２年後には開業することからコースの変更が余儀なくされ、場合によっては新都心以外の地域での開催になる可能性もある。

さらには、今回のさいたまクリテリウム開催を契機として「自転車の街」としてのブランド化を推し進めるため、来年度から事業化する10年で200kmに及ぶ**自転車通行帯の整備**についても加速させる必要がある。埼玉県の調べでは、都道府県別の１人当たりの自転車保有台数は埼玉県が全国１位。また、さいたま市は平坦な道路が多く鉄道利用者の約15%が駅と自宅との往復に自転車を利用するなど市民の足として定着している。しかし、自転車通行帯の整備は進んでおらず、埼大通りや県庁通り、大宮駅周辺や岩槻駅前通りなどごく一部に限られ、総延長は約1.7kmにとどまっている。こうした状況を改善するため市は昨年度から県警や国土交通省と連携して検討を進め来年度から工事に着手する。通行帯の整備は３種類で①幹線道路に整備する「広域ルート」、②広域ルートから駅や学校に繋がる「アクセスルート」、③河川敷などに設置する「レクリエーションルート」となっている。

さいたまクリテリウムの開催で自転車利用がさらに増加することが予想されることから安全で快適な自転車通行環境の整備を急いでほしい。

トピックス　大彗星になるか　アイソン彗星



アイソン彗星の見かけの位置（12月）　　国立天文台　天文情報センター

古代から彗星が現れると大きな政変や災害の前兆とされ忌み嫌われてきた天体である。しかし、天文学の発達により彗星の解明が進んだ近年では天文ファンに取っては数十年に一度の天体ショーととらえられている。

昨年９月に発見されたアイソン彗星が、11月29日に太陽に最も接近する（近日点）。彗星は氷や二酸化炭素、そのほか宇宙の塵が固まった天体で、太陽に近づくにつれて太陽のエネルギーによって水等が蒸発し始めこれが太陽の光に照らされて「彗星の尾」として見えるようになる。今回現れたアイソン彗星は大きさが数kmと大きく太陽表面（太陽の直径が139万km）から83万kmとたいへん近い地点を通過することから水蒸気など膨大なガスを吹き出し近日点通過後はたいへん大きな彗星として見ることができるのではないかと期待されている。

それでは、地上からはどのように見えるかといえば、11月下旬から肉眼でも見えるだろうと予想されているが、本格的には12月に入ってからだろう。12月３日頃から日の出前の東の空に現れるようになり、日を追う毎に高度が高くなって行き観察がしやすくなる。おすすめの観察日は６～８日の夜明け前となりそうだ。彗星の尾が十分に長くなり、10倍程度の手軽な双眼鏡があれば十分な観察ができるだろう。空が澄んでいれば12月下旬までは肉眼でも見えると予想される。関東地方の12月初旬は冬型の天気が多く澄んだ星空が期待できるが、夜明け前の一番気温の下がる時間帯であり、彗星の観察にはしっかりとした防寒対策が必要となる。

折しも、今、日本の宇宙飛行士　若田光一さんが国際宇宙ステーションに滞在している。アイソン彗星が雄姿を見せるこの好機を捉えるため JAXA（宇宙開発研究機構）と NHK が協力して史上初めて超高感度４K カメラを国際宇宙ステーションに打ち上げ、大気圏外の天体観測には最適の場所から世界で初めて、巨大彗星の撮影を試みる。宇宙からの生中継で美しい鮮烈な彗星の映像を見ることによって人類と宇宙の繋がりを体感できることを期待している。

放送は2013年12月４日（水）午後７時30分からの「NHK スペシャル」（予定）